

フレッシュャーズ・セミナー 2011

「保育者になりたい」と思う気持ちがさらに強く

池田 千波（県立元石川高等学校）

言葉は言葉でも、気持ちがこもっていなければ意味がないという話が印象に残りました。また、実際に保育現場にいらっしゃる先輩方から、様々な幼稚園・保育園の様子を伺うことができ、今まで自分が思い描いていた幼稚園・保育園のイメージはその一部に過ぎないという気づきと共に、より現実味がわき、「保育者になりたい」と思う気持ちが強くなりました。

同じ夢に向かう仲間と分かち合えた不安

石澤 礼子（県立相模原総合高等学校）

保育者とはどのような存在なのかを詳しく教えていただき、その分、不安も増えました。学んだことを実践するのはそれほど簡単なことではない、苦しいこともたくさんあるのだなと思いました。しかし、グループディスカッションで意見を交わすことができ、「自分が抱えている不安なことは、みんなも同じなんだ」と分かり、同じ夢に向かっている仲間と話し合えてよかったと思います。

この学校でよかった

大井 紗織（県立城山高等学校）

聖セシリア女子短期大学について、入学前より深く知ることができ、「この学校でよかった」と強く感じるようになりました。昨日まで母が入院していて、始まったばかりの短大生活と家事の両立でくじけそうになっていましたが、セシリアの先生方の笑顔やお話から元気をもらうことができました。「挨拶の方法」だけを学んでも、「他者を思いやる心、受け入れようとする心を身につけなければ意味がない」というお話は特に印象に残りました。



家族の理解と支えに感謝しながら

大島 営子（社会人入学）

3月11日の東日本大震災や原発事故で被災された方々のことを思うと、社会人経験者として入学して学べる環境があり、それを理解し支えてくれる家族がいることに感謝しながら、日々の学業と主婦業を両立させていこうと、改めて決心しました。人に安心感を与えられる表情、それを支える心の働きを、日常生活の中で、学生生活の中で実践していけるよう心がけたいと思います。

「セシリア大好き！」と心から言える2年間に

奥野 美紗（文教大学付属高等学校）

入学前は学習や実習への不安よりも、友だちができるかという不安の方が大きかったのですが、2年間一緒にがんばっていきたいと思える仲間たちに出会うことができました。最も驚いたことは、私たちのために仕事で大変お忙しい中を、保育現場や自らの学生生活のことを話しに来てくださった先輩方から、「セシリアが大好き」という気持ちがあふれていることでした。私も「セシリアが大好き！」と心から言うことのできる充実した2年間を送りたいと思います。

あらゆることに心を込めて“ロウソク”のような人に

小田 桃花（社会人入学）

社会人経験を経て、しかも入学を決めるのが遅かったので、不安でいっぱいでした。しかし、このセミナーを通じて、「仲間」と出会うことができたことを感謝します。卒業生からのメッセージで、「ノートは現場で役に立つ」と伺い、しっかりと綺麗にノートをとろうと思いました。そして下手でも気持ちが大切だと思うので、ピアノも歌も一生懸命やろうと思いました。自分の身を削って、周りを明るく照らす“ロウソク”のような人になれるよう、学生生活に取り組みます。

目標をもって一つひとつをしっかりとこなす

尾登 彩（県立厚木東高等学校）

受験前に「人間力と保育力を身につけた保育者」という言葉が印象に残っていたのですが、改めてその深い意味を聞くことができました。お忙しい中を駆けつけてくださった先輩方の姿を見て、1年後、5年後、私も先輩方のように人前に出てきちんと話せ、大きな声で手遊びなどができるようになりたいと思いました。目標をもって、一つひとつをしっかりと大切にこなし、「子どもたちの気持ちを分かっ

保育の尊さを実感

加藤 杏奈（県立相模田名高等学校）

卒業された先輩方が話してくださった“現場の声”は、自分の将来を想像するための、貴重な機会となりました。保育者のあり方、大変さ、やりがいなどを伺い、改めて“保育”の尊さを考え直すことができました。授業も実習も大変になっていくと思いますが、先輩方や先生方から教えていただいたことを心に留めて、悔いの残らない短大での2年間を送りたいと思います。

プロの保育者になるということ

川尻 あさき（県立新栄高等学校）

「専門的な知識と技能を身につけてこそプロの保育者」。この言葉が印象的でした。「子どもが好きだから保育の道を選んだ、というだけでは保育者にはなれない」。知識、技術、礼儀、言葉づかい、体と心の健康、人間関係……。短大生活はあつという間ですが、その短い期間に学べること、できることに積極的に取り組み、その経験を実習に、そして将来につなげていきたいと思っています。

自らの選択に責任を持つ

金田一 瑞希（川崎市立高津高等学校）

これから自分がどのような保育者になりたいのかというイメージ、そしてこれからの2年間で身につけるべきことが見えてくるセミナーでした。グループミーティングで、「自由になる分、責任が伴う」という意見があり、自ら選んで「学びたい」と思って入学した学校での生活に、自分自身で責任を持たなければならないということに気づかされました。また、積極性を身につけていきたいと思いました。

人々への奉仕のために

グエン・ヌ・トゥイ・ジェム（社会人入学）

保育者がどのような役割を担い、どのような使命を持っているのか。そのことが少し分かってきました。聖セシリアの精神、目指すものを学び、将来、人々のためにできるだけ奉仕したいと願っています。日本語の学習と併せて、保育者への道を歩むのは大変ですが、セシリアの先生方はとても親切で、学生のために一生懸命サポートして下さいます。安心して、2年間、自分らしく学生生活を送りたいと思います。



元気と笑顔を与えられる人間に

坂元 恵美（横浜商科大学高等学校）

私の母は里親をしていて、よく家に子どもが来ます。「どうやって接したらいいのか・・・」最初に必ず考えることです。今回のセミナーで、先生方や先輩方からお話を伺い、周りの人に元気と笑顔を与えられる人間になりたいと思いました。そして、人前で自分の意見や考えをしっかりと言えるように主体的に学習に取り組み、社会で通用する力を身につけられるよう努力します。

つながりの大切さに気づいたセミナー

佐藤 愛美 (都立山崎高等学校)

「ロウソクのような人であってほしい」「謙虚であたたかい人であってほしい」、そんな言葉が心に染みるセミナーでした。今、世の中は、東日本大震災によって、人と人とのつながりが見直されています。「つながりが自分のエネルギーになる」という根本的なことに気づくことができたのも、このセミナーの成果でした。これから始まる 2 年間をかけて、自分の至らないところを変え、社会に出ても恥ずかしくないと思える大人になりたいと思います。

卒業生の話に将来への期待感が

澤田 このみ (国士舘高等学校)

たくさんのお話を聞くことができ、とても勉強になるセミナーでした。卒業生の方から「子どもだけでなく、保護者、地域の方々との関わりも大切」ということを教えていただきました。保育現場は楽しいことばかりではないと思うのですが、卒業生の方々が嬉しそうに話してくださるのを聞いて、「忙しかったり、大変だったりする中でも、きっとやりがいを見つけて、楽しいことや嬉しいことがあるんだろうな」と思い、将来への期待がふくらみました。



いろいろな体験を通して自信をつけたい

菅原 静 (県立田奈高等学校)

自分の気持ちを素直に伝える心、感情を伝える言葉、他者を思いやり受け入れる心…。このセミナーでたくさんのお話を学びました。私はとても緊張しやすく、人前に出ることが苦手ですが、先輩方の話を聞き、今は苦手でも様々な体験を通して自信が持てるようになったらいいな、と思います。これから 2 年、このセシリアで努力し、教わったことを実践できるようがんばります。

ぼんやりながらも自分なりの保育者像が

杉山 美帆 (県立秦野曾屋高等学校)

卒業された先輩方からの話を聞いて、「本当にあのような立派な保育者になれるのか」という不安な気持ちと、「2 年間がんばれば、先輩方のようなしっかりとした保育者になれるんだ」という楽しみが混じり合いました。ぼんやりとですが自分の中の保育者像ができ、グループディスカッションで、不安に思っていることが皆一緒だということも分かり、共にがんばっていきたいと思いました。

まずは心の土台を

高橋 小都 (大学卒業生入学)

一番驚いたのは、先輩方が本当に話し方も上手でアクティブだということです。私たちのために休みを削ってまで来てくださり、大変嬉しいことでした。このような精神は、セシリアでの生活で養われてきたのだろうと感じました。相手を思いやり、受け入れるという土台の上に、いろいろな技術と知識が伴い、一人前になれるのではないかと実感しました。たくさんの人とふれあい、協力して学んでいきたいと感じています。

安心感を与えられる保育者を目指して

高橋 良子 (社会人入学)

これまでの社会経験での「人との関わり」が、本当に気持ちの伝わるものになっていたのか、安心感を与えられるものになっていたのかをふりかえる良い機会となりました。年代の異なる学生と仲良く、助け合いながらやっていけるかという不安はあります。しかし、「あの時、もう少し勉強をしておけばよかった」と後悔しないよう、大切に 2 年間を過ごし、指導力をつけるだけでなく、安心感を与えられる保育者になりたいと思います。

主体的に身につける人間力と保育力

田中 優衣（福岡県立玄洋高等学校）

「人間力と保育力を身につけた保育者になってほしい」。それが聖セシリアの願いであることがよく分かるセミナーでした。プロの保育者を目指すために、主体的に授業に取り組むことはもちろん、人との関わりを大切にすること、相手の気持ちを考えながら自分の思いをしっかりと伝えていくことを学び、他者のために自分を活かすことのできる保育者を目指します。

これから、ここで始まる

椿 美紗（緑ヶ丘女子高等学校）

研修でのお話に身がひきしまり、「これから、ここで始まっていくんだ」という実感がわいてきました。今の自分には足りないものばかりで、不安だらけですが、今回のお話で出てきた課題をクリアし、素晴らしい人間、人を愛し、人から愛される人間になっていきたいと思いました。一日一日が自分を育ててくれます。毎日を無駄に過ごすことなく、大切にしていきたいと改めて思いました。



積極的に前へ出る自分に

土佐 あかね（県立寒川高等学校）

「保育者は良くも悪くも見られている」「初心を忘れてはならない」「子どもたちに教えることの意味を分かっているなければならない」「気持ちを素直に伝え、受け取る」「他者を思いやる心、受け入れようとする心を忘れない」…。大切なことを学んだセミナーでした。メモしたことをいつでも見直し、これまでの「逃げる自分」から「積極的に前へ出る自分」を目指します。

不安より希望が多くなったセミナー

富岡 奈津紀（大学卒業生入学）

大学を卒業し、自分で保育者への道を選んで聖セシリアに入学しました。入学当初、授業や実習、友だち関係などに対する不安で眠れないこともありましたが、このセミナーで多くの方々のお話を伺い、不安よりも希望の方が多くなってきました。目標を見失うことなく、信念と周りの人々への感謝の気持ちを忘れず、2年間、夢に向かって進んでいきます。

保育現場で働く先輩方の姿勢に学ぶ

長谷川 麻里奈（川崎市立高津高等学校）

保育現場で活躍している先輩方から、「子どもの遊び」で作ったノートは今でも活用していると聞きました。先輩方を見ていて、いろいろな場面に対応できるようになりたい、と心から思いました。また、人間関係を大切にし、お互いに声をかけ合い、情報交換することの大切さも教えていただきました。「保育」を真剣に考え、感じることでできる充実したセミナーでした。

自分の持っている力を見つける2年間

馬場 知美（県立生田東高等学校）

「いくらたくさんのお話を聞いて、ピアノが弾けても、“親和性”（親しみ、つながり）がなければ意味がない」というお話、そして「自分の持っている力を出し切り、人を、子どもを幸せにする」というお話から、「自分の持っている力」とは何か、それをこの2年間で見つけないと、思いました。子どもたちや保護者の方々に認めてもらえる保育者を目指します。

自らに火を点し人に尽くせる人間に

村上 遥（県立湘南台高等学校）

グループミーティングでの意見交換、先生方のお話、2年生の先輩方のお話、そして卒業されて保育者として現場で活躍されている先輩方のお話に直接触れ、今までの不安が緩和されたように感じました。「自分は今、何を目標として、何のために、何に取り組むのか」を、常に自分に問いかけながら、自らに火を点し、他者に尽くせる人間になれるよう、成長していきたいと思います。

身を削る努力、そして愛情

李代 雪奈（八王子実践高等学校）

自分を犠牲にしても、他者を思いやれるロウソクのような人間…。心にジーンとききました。「子どもが好きというだけでなく、子どものために何をしてあげることができるのかを考えなければならぬ。そのためには身を削るような努力が必要であり、愛情を持たなくてはいけない」と心から思いました。将来、乳児院や施設での仕事を希望しています。「幼稚園や保育所より大変だよ」と言われましたが、あきらめずにがんばろうと思います。

協力することの大切さを改めて知る

山下 真夏（聖ドミニコ学園高等学校）

幼稚園では、担任を持ってクラスの子どもたちだけを見ていればよいのかと思っていたのですが、保育現場で働いておられる先輩から、「保育者一人ひとりが、園全体を見る」というお話を伺い、皆で協力することの大切さを改めて知りました。ボランティアルームスタッフになったので、こうした機会を無駄にせず、セシリアで皆と協力してがんばっていきたくて強く思いました。

自分の保育観を持てる保育者を目指して

吉野 由季（県立横浜緑園総合高等学校）

小学校高学年の頃から保育の仕事に憧れて、この短大に入学しました。今まではただ子どもが好き、一緒に遊んでいるのが楽しいというだけでした。しかし、今回のセミナーで、子どもだけでなく「人」を好きになること、一人ひとりの個性をよく見て受け入れること、他人任せにせず自ら積極的に動くことなど、素晴らしい保育者になるために必要な要素を実感することができました。自分の保育観を持ち、他者のために自分を活かせる保育者を目指します。

憧れの先生をイメージしながら努力したい

米田 麻悠（都立山崎高等学校）

この学校に入りたいと思ったきっかけの一つである「人間力」という言葉を、今回のセミナーで改めて考え、「絶対に自分は“人間力”も身につけた保育者になりたい！」と思いました。保育者に必要なピアノ、歌、造形、人前で何かをすることなどが苦手で、人の何倍も努力しなければならないと感じています。思いやりをもって、素直に気持ちを伝えられる保育者を目指して、私の憧れの、幼稚園に通っていたときの先生をいつも頭にイメージして努力していきます。

